



### 野生動物と航空機の衝突に関する ICAO 報告書 (2008-2015)

ICAO から 2008-2015 Wildlife Strike Analyses に関する Electric Bulletin が発行されました。これは、2008 年から 2015 年に ICAO に報告された野生動物の航空機への衝突に関してデータを纏めたものです。そこで、このニュースではその内容を抜粋してご紹介します。なお、Electric Bulletin は ALPA Japan HP にニュースと共に掲載していますので、合わせてご参照ください。

報告件数：97,751 件 (2001~2007 年は 42,508 件)

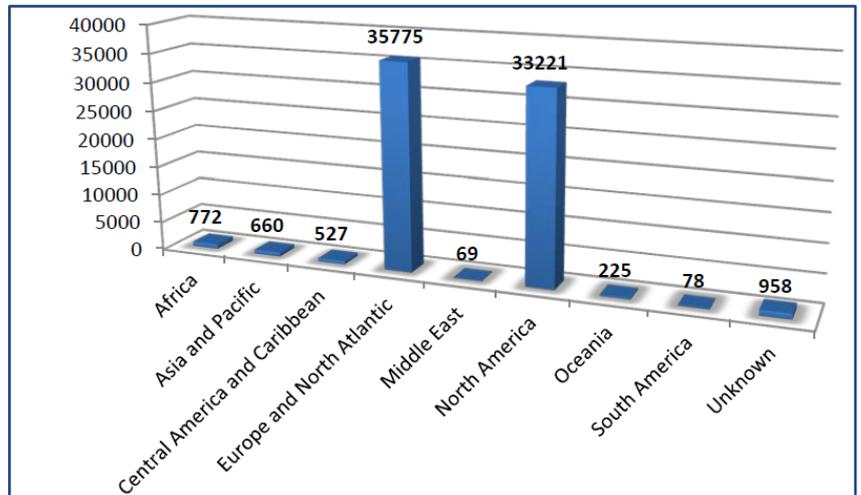
報告があった国数：91 か国

発生した国・地域：105 か所

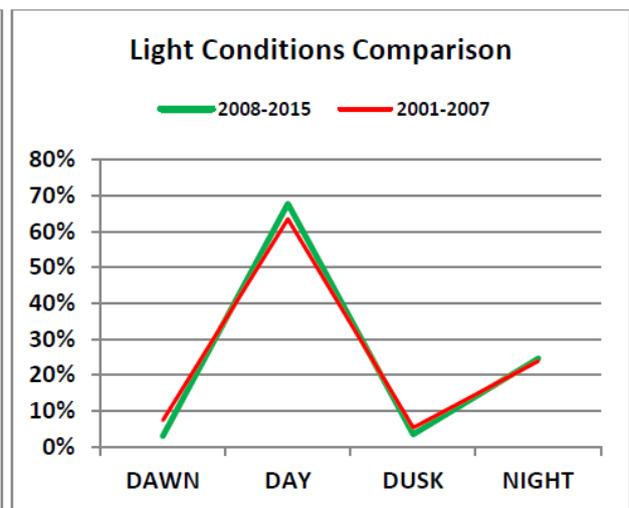
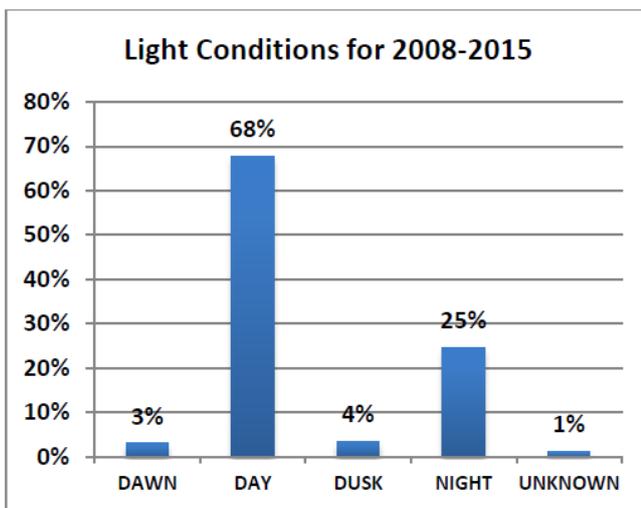
#### 地域的分布

欧米での報告数が多い

交通量の大小、報告文化などが影響



#### 発生時間帯

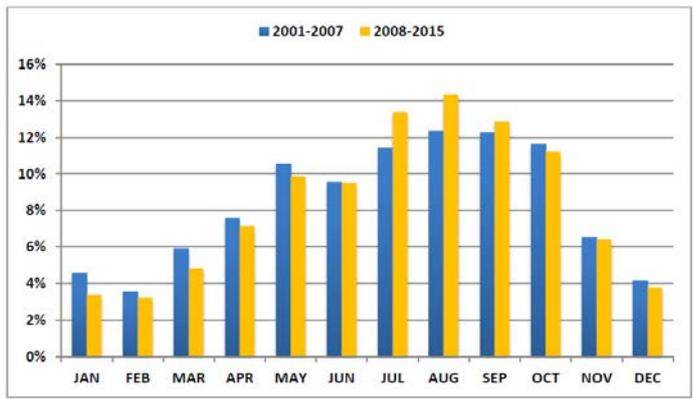
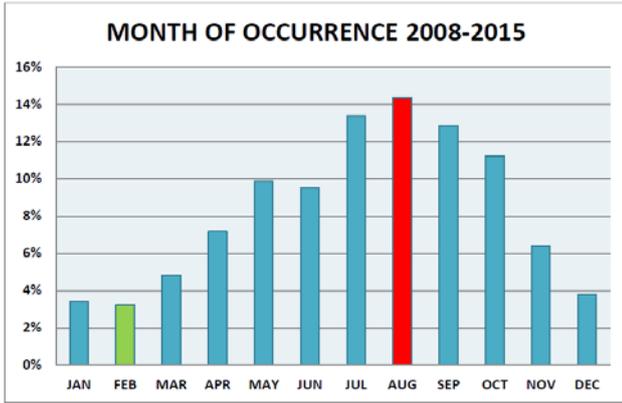


(左図) 日中帯が 68%と最も多い

(右図) 前回と比べ報告数は 2 倍ほど増えているが、昼夜の発生分布はほぼ同じ

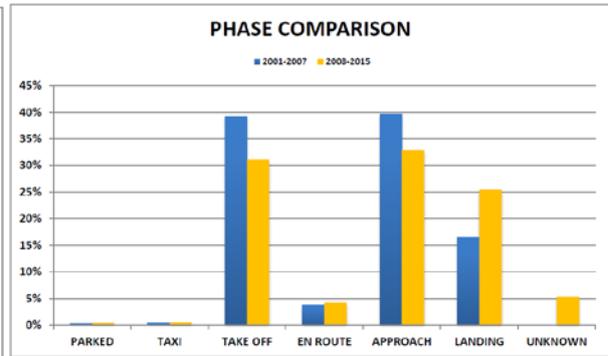
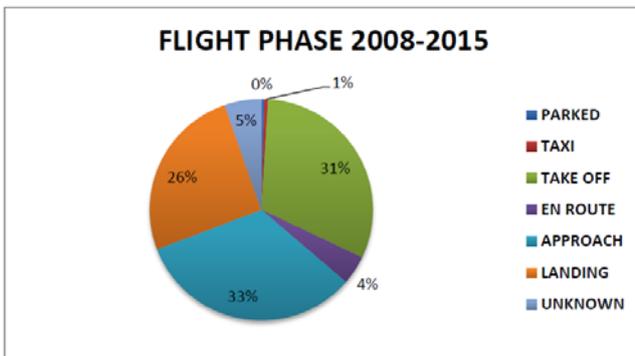


## 時期的分布



夏場が多く、冬場に少ない傾向がある。8月に最も多いのは前回の統計と同じであった

## フライトのいつ起こっているか？



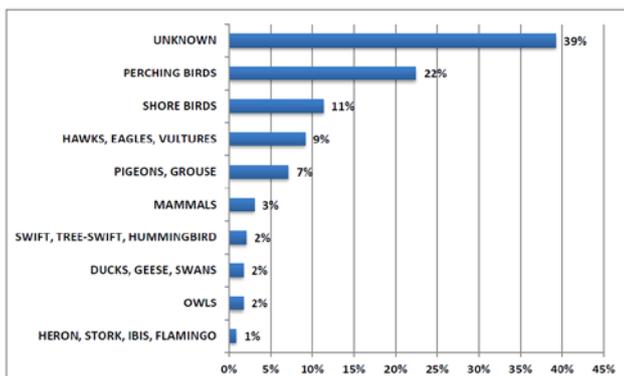
(左図) 巡航中と不明を除くと、91%が空港周辺で発生している

(右図) 31%が離陸フェーズ、59%が進入・着陸フェーズ。前回の統計と類似した傾向である

## 航空機へのダメージ

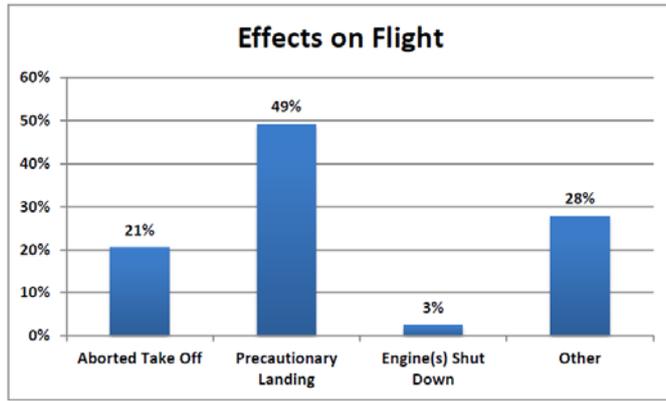
全報告の約 34%にあたる 33,376 件については航空機へのダメージが報告された。報告ではダメージがコード化されており、17 機が破壊相当、600 件が相当なダメージ、1,874 件が軽度なダメージ、30,817 件が特にダメージ無しであった、と報告されている。

## 衝突した動物などの種類について



47,748 件に及ぶ航空機と衝突した動物の種類のうち、最も多かったのはハトの 2,634 件 (6%)。その次はツバメの 2,592 件 (5.4%)、カモメ 2,128 件 (4.5%)、ハヤブサ 1,923 件 (4%)、チドリ 1,773 件 (3.7%) と続いている。左図の哺乳類 (Mammals) にはコウモリのほか、野ウサギなど飛ばない動物が含まれている。

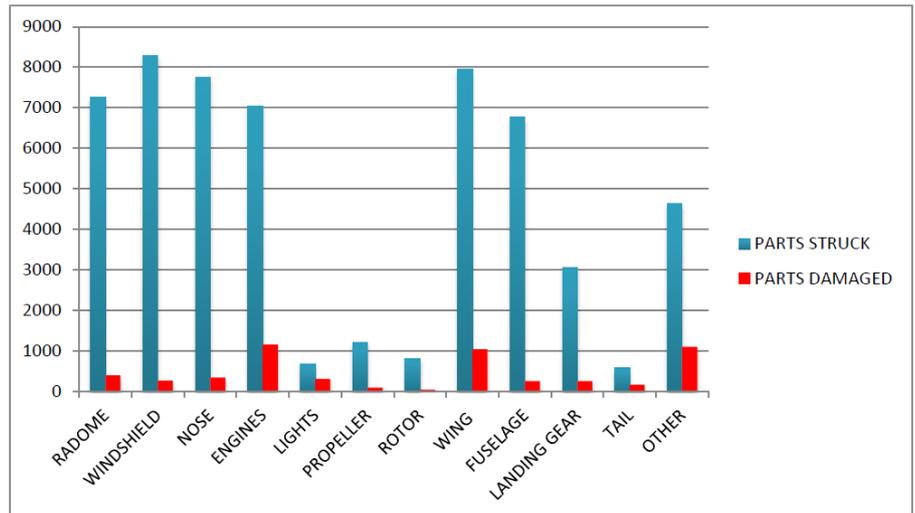
## 航空機の運航への影響



全報告のうち、12,227 件では運航への影響の有無も報告されている。そのうち 2,501 件では何らかの影響があり、1,230 件では念のために出発空港へ引き返した。513 件で離陸取りやめ、63 件でエンジン停止措置が報告されている。

## 航空機の損傷部位

前回より 44% も多い 56,093 件で航空機部位への損傷が報告されている。最も多かったのが Windshield の 8,296 件、7,955 件の Wing、7,756 件の Nose と続いている。



## 最後に

報告書の最後には、衝突した野生動物の種類などの Raw Data が列挙されています。その中で、鳥やウサギだけでなく、アリゲーターやカメが航空機に衝突した事例が報告されているのは興味深い内容です。

日本国内の地方空港では、鹿や熊、キツネ、タヌキなど、鳥以外の野生動物の空港内への侵入が報告されています。従って、鳥類以外のこれら哺乳動物にも注意を払う必要があります。



ALPA Japan

**空港アンケート**  
Questionnaire click

実施中!

検索